

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度	平成 24 年度
--------	----------

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	教育旅行支援事業				
担当課係名	農山村体験デザイン室 課	係	作成者	高倉正人	
総合計画での位置づけ	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち			総合計画のページ 30
	基本計画	観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし			
	主要施策	観光客受入体制の整備			
予算費目	一般 会計	7 款 商工費	1 項 商工費	3 目 観光費	
事業期間	平成 年度 ~ 平成 年度	新規/継続の区分		継続	
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				
根拠法令等	なし				
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
運営方法	<input type="checkbox"/> 直 営 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 (一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託 (全部) <input type="checkbox"/> 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	児童、生徒、学生 (主に中学生)
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	教育旅行の年間受入学校数を増加させる。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	宮城県、北海道をはじめとする各地教育旅行の誘致PR活動と受入体制の整備。

【事務事業の推移】

		項 目		単 位	23年度実績		24年度実績		
					23年度実績	24年度実績	23年度実績	24年度実績	
効果	活動指標	旅行会社・学校訪問数	目標	校	200	200			
			実績	校	209	133			
			達成度	%	104.5%	66.5%			
	成果指標	教育旅行受入れ学校数	目標	校	100	100			
			実績	校	113	95			
			達成度	%	113.0%	95.0%			
投下コスト	項 目		総事業費		23年度決算額(千円)	24年度決算額(千円)			
	事業費 (人件費を除く) (A)				1,308	2,008			
	人 件 費 (B)		—		10,599	10,358			
	職 員 数		—		1.25	1.25			
	職員平均人件費		—		8,479	8,286			
	(A) + (B) 投下コスト		—		11,907	12,366			
	財源内訳	国 庫 支 出 金				0	0		
		県 支 出 金				0	0		
		地 方 債				0	0		
		そ の 他				0	0		
		一 般 財 源				11,907	12,366		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		56,971	92,977			
	市民1人当たりのコスト(円)		—		400	421			

【事務事業の今までの成果】

宮城県（仙台市及び校外）の小中学校並びに北海道（札幌市及び道南地区）の中学校を対象に、誘致活動を展開している。また、札幌市の中学校を対象とした秋田県教育旅行誘致説明会にも参加し、誘致に向けたプレゼンや個別相談を実施した。このような活動が成果につながり、体験型教育旅行のニーズが高まってきている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	北海道地区の教育旅行については、秋田県観光連盟、男鹿市観光協会、十和田八幡平観光物産協会との連携を図りながら、毎年、広域誘致キャラバンを実施している。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	春の教育旅行シーズンになると、農作業体験や伝統・文化・自然体験などが市内各地で実施され、連日のように生徒が訪れている。これにより市内も活気づき、受入農家やインストラクターの所得向上の一助につながっている。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
B 1	A 現状のまま継続（実施）	平成23年度に農山村体験デザイン室が設立され、教育旅行の担当窓口が一本化された。これにより、旅行会社や農家民宿との連絡調整もスムーズに捗るようになり、誘致活動の成果も上がっている。今後は、受け皿となる受入農家、インストラクターの育成・確保、新しい体験メニューの提供など、受入体制の整備を万全に整えていきたい。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

これまでの誘致活動を継続的に進めてきたことで、仙北市への教育旅行のニーズは高まっている。昨年度事業で、体験ガイドマップを作成したことにより、多くの体験メニューを提案できるようになったこと、環境学習というエネルギー資源について学べる新メニューを提供できるようになったことなど、今後より多くの誘致を図りたい。また、懸案課題である受入側の体制づくりにも力を入れていきたい。

【二次評価】

判定	判定に至った理由
B 1	定着化しているが、受入体制の更なる整備の必要と考えます。

一次評価診断図

